

防犯コラム 03 「目からウロコの防犯対策1／隣の家よりちょっと良く」

■ 防犯システムの考え方

防犯コラム2でも申し上げたように当然、泥棒は捕まることを一番嫌がります。
そのため、出来るだけ捕まらないように考えるわけです。仮に下のようなAさんの家とBさんの家があったとしたら・・・。
あなたが泥棒ならどちらの家を狙いますか？

	Aさん宅	Bさん宅
玄関の錠前	2個	1個
窓	面格子や防犯ガラス有り	普通のガラス
警備システム	有り	無し
状況1	在宅多	不在多

当然、Bさん宅を狙うのでは無いでしょうか。
ここまで差の激しい家ではなく、仮に次のような場合はどうでしょうか？

	Aさん宅	Bさん宅
玄関の錠前	2個	1個
窓	普通のガラス	普通のガラス
警備システム	無し	無し
状況1	不在多	不在多

これもやはりBさん宅では無いでしょうか。
残念ながら、太古、昔からどんなに罪を重くしようと、どんなに強固な防犯システムを導入しようと、泥棒が完全に無くなることはありません。

そして、防犯の基本は、自己防衛であり、出来れば自分は被害に合わないようにすることなのです。
そのために重要なのは、実は、「他より防犯性を考え、防犯性を上げることなのです」

■ ワンドアツーロック(1つの扉に2つの錠前)は完璧ではない?!

昨今、警察や防犯関連団体でもワンドアツーロックが啓蒙されていますが、錠前を2個にすれば『完璧』に被害が防げるという免罪符ではありません。

日本の住宅、特に集合住宅では扉に1つの錠前が多かったです。先に記述したよう、他より防犯性を上げることを考えると、この錠前を2個にすることは当然、効果的な防犯対策でした。

しかしながら、昨今では、防犯対策として後付で錠前を2個にする方も増えまして、新築の家では殆どがワンドアツーロックになっています。では、非常に極端な話ですが全国の家がワンドアツーロックになれば泥棒もゼロになるでしょうか？

残念ながらその可能性は低いと思います。実際、海外の治安の悪い街では、ワンドアスリーロック、フォーロックという風に1つの扉に3個、4個の錠前が付いていることも珍しくはありません。